

介護について問う

野の並なみ享きょう子こ

問 だれもが老後は安心して暮らしたいと思っ

ている。介護保険が改悪され今年10月から入所施設の食事代・居室代が保険からはずされ、全額自己負担

になる。

特別養護老人ホーム「あやめの里」の入所の方は、非課税世帯で年金が80万円以上266万円以下なら一か月85000円になる。



居室代を払うことは自宅の家賃との二重払いになり、また低所得者の行き場を奪うのではないか見解を求める。

負担の緩和が図られる。

低所得者には減額制度を

市民健康福祉部長

答 食費・居住費の本人負担については、在宅サービス利用者との均衡上、やむを得ないと考える。

また、低所得者に対しては負担増とならないよう、新たな給付が創設されるほか、減額制度により、

子どもの健全発達をサポートする児童館について

問 未就園児や小・中学生は遊び場を求め、スパーや隣の児童館に行ったり、家の中でゲームをしたりしている。子どもたちの健全な遊びをサポートし、個性と発達を保障

児童館の充実が求められている。

現段階では考えてない

市民健康福祉部長

することができ、自由に遊べる「屋根のある公園」

答 児童館の整備計画は現段階では考えてない。自治会館やコミセンなど

で場所を確保。



あやめの里

旧第二びわこ学園跡地は

小こ島じま進すすむ

問 昭和41年に野洲町南

櫻に開設された施設も築後38年が経過し、施設全体に老朽化が著しく野洲町北櫻、三上山を背景に近江富士花緑公園に隣接

する恵まれた自然環境の地に、平成16年3月に移転業務が開始された。

ほぼえみの里、びわこ学園施設も開園後一年六か月を迎える。

次の項目について伺う

○野洲市への跡地返還予定期日は
○今後の跡地利用目的と管理体制は

地元自治会と協議し計画を

市長

答 譲渡時期については、旧第二びわこ学園跡地の利用計画が定まってい

ないこと、昨年より無償貸与した第二びわこ学園敷地との兼ね合いもあり、譲渡時期は決まっていない。

○今後の利用目的は、跡地利用に向けた協議が進んでいないことから、利用目的が定まっていないが、地元自治会のご意見を踏まえ、市のまちづくり計画に添った利用計画が図れるよう進める。

なお、更地となった跡地は、現在、第二びわこ



旧第2びわこ学園跡地

水道料金の改定は

小菅 六雄

問 合併協議会のシミュレーションでは、2町の水道料金統一に当たり、旧中主町の料金を大幅に値上げすることになっている。これは「合併で負担

は低い方に」という原則に反する。これまで、水道会計に国合併補助金投入や経営努力を行い、値上げをやめるよう求めてきた。この結果、「市

次の市議会に提案予定

環境経済部長

答 上水道運営委員会で審議を賜った改定案で次

期市議会に提案する。

分庁舎のサービス拡充は

問 合併後、分庁舎となった旧中主役場では、市民の相談・申請に対応できなくて「本庁舎に行くよ」と言われた例が多々ある。市長は、「分庁舎の権限を強化する」と答

ない。権限強化と言うなら、福祉・医療にかかわる相談・申請に対応できる「出先機関」を分庁舎に設置すべきである。

その他の質問

○イオンとの契約について

答 福祉・医療関係の経験ある職員を配置している。状況により分庁舎に本庁舎職員が出かけ相談

職員が出かけて相談

総務部長

を行うことになっている。健康福祉部の出先機関を設置する考えはない。



分庁舎 1階

石造トンネルの

取り扱いを問う

竹内 孝治

問 石造トンネルについては撤去を望まれる率直な地元住民の思いをつたえてきた。当局は撤去か

移転かに、有識者等の意見を聞いた上で結論を出すとの答弁。その後の結論は。

人命にも関わる事態が

想定のため撤去

都市建設部長

答 篠原神社の鎮守の森と一体化した中で現地保存の計画をしていた。しかし平成16年6月に県より琵琶湖西岸断層帯の地震発生確率が公表され専

門業者に調査依頼の結果、崩落の危険性を指摘された。貴重な遺産であるが人命にも関わる事態が想定されることから撤去。

道路・河川改修事業の

進捗を問う

問 国県の財政難に伴い大型の新設改修事業が、近年各地方でも大きく遅

れ、中断等よぎなくされている。当地域各事業の進捗状況は。

最大で日野川広域河川

改修4年遅れ

都市建設部長

答 ①18年度に完成予定
②4年遅れ22年完成予定

③18年度完成予定
④25年度完成予定

⑤18年度完成予定
⑥当初計画は18年度で2年遅れの20年完成予定

